

# カスリン台風

これは、昭和二年（一九二七年）九月に群馬県を襲ったカスリン台風による被害状況を群馬県がまとめた文書です。戦後の復興を目指す中の昭和二年九月一日カスリン台風が日本本土を直撃し、一日目に台風が鹿島灘に抜けるまで豪雨となりました。赤城山南面の崩壊、河川の氾濫など、県内各地が未曾有の被害を受けました。また、翌三年（一九四八）にはアイオン台風が、四年（一九四九）にはキティ台風が上陸し、三年続けて本県は台風による被害を受けました。当時「群馬県は全国一の災害県とまで言われたほどです。」

（参考資料）「群馬県史」通史編7 七七五～七八頁

昭和二十二年九月

## 水害資料

## 群馬県

### 一、群馬県の災害原因（昭三三、九、二七）

1. 巨大なる雨量
2. 山林の濫伐と植林の遅滞
3. 防犯工事の不完全
4. 中小河川の管理修繕の不完全
5. 護岸の不備
6. 橋脚橋臺の設計不備

治山治水  
計畫の不備

### 二、群馬県の災害概況（昭三三、九、二七）

- 一般に報道されるものよりは遙かに被害である。  
 災害の特徴を山間部、平川部、低地部に分けて考へるに  
 1. 山間部——山津波に因る人命の被害、家屋の流失倒壊、田畑の流失埋没と林道、釜橋梁の流失  
 2. 平川部——山津波の餘波と河川の氾濫、堤防の決壊による人命の被害、家屋の倒壊流失、田畑の埋没流失と泥土の堆積による田畑の荒蕪  
 3. 低地部——河川の氾濫と堤防の決壊による家屋の冠水、田畑の冠水、洪水  
 他、資料と比較しての本縣の災害の特徴は山津波による山間部の其次なる被害

### 三、群馬縣水害被害状況調査（昭三三、九、二七現在）

死亡不明者	五九二人	河川堤防崩落流失決壊	一、一九六ヶ所
行方不明者	一〇七人	砂防石積崩落	二〇三ヶ所
重傷	三一人	町村工事（道路及橋梁その他）	二、〇三七ヶ所
軽傷	九一六人	家畜被害調査	一、〇五五頭
家屋の流失、倒壊、損壊	一、九三六戸	牛、馬、羊、山羊	五四四九羽
家屋半壊	一九四七戸	その他	三一五七〇三間
床上浸水	三、一二四戸	土工事被害	一九一三六間
床下浸水	三九八〇八戸	道路	一六九、〇七八間
冠水田	七、五七六町	護岸	二、九一〇ヶ所
冠水畑	七七六、二町九	堤防	一、八八五ヶ所
流失河浸田	五、〇三町	池	
流失河浸畑	五三、一四町九		
道路決壊	一、四六九ヶ所		
橋梁流失倒壊決壊	三五五ヶ所		

### 四、群馬縣水害損害額概算（昭三三、九、二八）

建物	貳拾七億五千圓
農作物	九億五千圓
畜産	四億五千圓
森林	四億圓
土木	六億四千圓
土地	拾九億七千萬圓
耕地	八億七千萬圓
食糧	壹億壹千萬圓
商業	拾七億九千萬圓
衛生	九拾五億七千萬圓
計	

### 五、群馬縣水害復舊費概算（昭三三、九、二八）

土木	拾九億七千萬圓
森林	八億七千萬圓
耕地	五億六千萬圓
食糧	壹億圓
計	拾七億圓

（右は公費負担に回すものみにして個人復舊費含まず）